男子 徳島市立V2 池田 女子

男子決勝リーグ・徳島市立対城北　優勝に貢献した徳島市立の森内⑧＝鳴門アミノバリューホール

ハンドボール

（鳴門アミノバリューホール）

【男子】決勝リーグ　徳島科技30―18池田、徳島市立47―17城北
▽順位①徳島市立3勝②徳島科技2勝1敗③池田1勝2敗④城北3敗

【女子】リーグ戦　城北21―12鳴門、池田19―17徳島市立
▽順位①池田3勝②城北2勝1敗③徳島市立1勝2敗④鳴門3敗

退場者出し接戦

○…池田女子は得意の速攻が精彩を欠き、最終の徳島市立戦ではかなりもたついた。19―17の接戦に持ち込まれ、桝田主将は「点を取られすぎ」と反省を口にした。

前半は地力を見せて12―8で折り返したが、後半はディフェンスからの

優勝確定も手緩めず　徳島市立

個々の選手の能力が高い徳島市立男子が2連覇を達成した。新チーム結成後、県内公式戦で無敗のまま全国切符を獲得。逢坂主将は「四国選手権、インターハイに向けていい流れがつくれた」と喜んだ。

決勝リーグで2戦を終えて優勝が確定し、最終日は城北との最終戦に臨んだ。持ち味の守りからの速攻が決まり、逢坂主将と身長180センチの森内を攻撃の起点にゴールを量産。前半だけで7連続得点を含む22得点を挙げた。

後半に入っても勢いは止まらない。10連続ゴールなどで点差が拡大しても攻撃の手は緩めず、30点の大差をつけて有終の美を飾った。チームトップの14得点を挙げた逢坂主将は「試合の入りはばたばたしたが、すぐに自分たちのペースに持ち込めた」と振り返った。

昨年の全国総体は1回戦で敗退。全国の壁を打ち破るため、攻撃力のアップを課題にして県外遠征を重ねている。昨年の悔しさを知る森内は「インターハイまでに、シュートの決定率をさらに高めたい」と意気込んだ。（佐々木基善）